

B-15 ジおよびトリクロロイソシアヌル酸系新
漂白剤に関する研究 第2報 ジおよび
トリクロロイソシアヌル酸の合成繊維・
樹脂加工布への適応性
付・漂白効果の判定法

お茶の水女子大 矢部 章彦
林 雅子
堀口 明子
旭電化研 ○加藤 淑子

1. ジクロロイソシアヌル酸カリの木綿布への適応性を従来の漂白剤と比較検討した第1報に引きつづき、今回は合成繊維・樹脂加工布への適応性を検討した。また、漂白効果の判定法に関して、実用条件を念頭において設定された実験条件範囲で精度よく漂白効果を追求しうる判定法を検討した。

2. 各種合成繊維試料布及び樹脂加工布試料により、有効塩素 200~1000 ppm の濃度範囲で、20, 40, 65°C の各温度でラウンダオーメーターにより 30, 60, 120 分処理を行ない、その漂白効果、強伸度変化を調べた。また漂白効果を精度よく判定するため、直接染料、酸性染料の水溶液および染色系について実用濃度範囲のジクロロイソシアヌル酸カリ水溶液による退色速度を検討した。

3. 合成繊維については、反射率の高い試料を用いたため、ビニロン、ポリプロピレンの他は漂白効果に有意差は認められなかった。しかし強伸度はトリアセテート以外の繊維で危険率 1% または 5% で温度、濃度に有意差がみられた。

樹脂加工布への漂白処理の影響は、試料に市販品を用いたため、樹脂加工そのものへの影響よりむしろ蛍光漂白剤の破壊に起因する黄化現象が顕著に認められた。

漂白効果を判定する適当な耐塩素堅ろう度をもつ染料としては酸性染料 Acid Orange R が最も適することが明らかとなり、これによって次亜塩素酸ナトリウムなどの他のものの漂白効果を精度よく比較することか出来た。